

PTA 防災委員会ニュース

令和6年 11 月 19 日
小平第十小学校 P T A 会長
PTA 防災委員会

日頃より皆様には PTA 活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

PTA 防災委員会では、1 月の能登半島地震をはじめ、実際に災害が起きた時の行動を改めて考え、十小付近の避難場所の情報提供と防災備蓄の重要性を伝えたいと考えてきました。

東京都では、家族で備蓄を確認するきっかけとなるよう 11 月 19 日を「備蓄の日」〈1 年に 1 度は**ひち(1)く(9)**の確認〉としています。そこで、今年度は、「**いつも考える防災**」をテーマに、いざという時の避難方法や避難場所、楽しく学べる防災サイトの情報を取り入れた《PTA 防災委員会ニュース》と《マグネット入り LED ライト》の配布を「備蓄の日」に合わせて行うことにしました。「備蓄の日」に、家庭の備蓄品の見直しや再確認に役立てていただき、家族で防災について考えるきっかけになればと思います。

PTA 防災委員会の活動内容

① 十小校区防災連絡会（以下、*1 防災連絡会）のメンバーとしての活動

- ・防災連絡会への出席、諸活動への参加

*1 防災連絡会は、学校や PTA、地域の方々、行政の担当の方々が集まり、防災についての話し合いや初動要員訓練、避難所設営訓練、避難所受付訓練などを行っています。

② 校内での活動

- ・児童および会員の防災意識向上のための諸活動
- ・防災連絡会での活動内容を PTA の「運営委員会だより」で会員に周知する広報活動



マグネット入り LED ライトの配布

今年度、PTA 防災委員会では《マグネット入り LED ライト》を配布することにしました。

マグネット内蔵のコンパクトな LED ライトです。冷蔵庫など目につく所に付けて使えます。PRESS ボタンを押している間にライトが点灯し、離すと消えます。活用方法を家庭で話し合ってみましょう。

在宅避難にそなえて

避難所は、被災者の生命の安全を確保する避難施設として、また、一時的に生活する施設として重要な役割を果たしますが、避難所の開設基準は震度 5 以上の地震が発生した場合など、市内の被害状況を総合的に判断し、市が開設を決定します。開設したとしても十小の**収容可能人数は 918 人**です。



その為、自宅ですぐに安全に過ごせる場合は、避難所に避難する必要はありません。災害時に自宅で安心して過ごせるよう、この機会に家庭の備蓄を見直しましょう。

在宅避難が難しい場合、知人や親せき宅、ホテルなどの宿泊施設など、避難所以外の安全な場所に避難する**分散避難**も考えておく心安心です。

避難先の判断

判断①

自宅に危険はない？

自宅や周囲が危なければ
安全な避難所へ。



NO

YES

判断②

自宅で生活できるか？

電気・ガス・水道が使えるかや
被害状況を踏まえ、周りからの
サポートが必要な場合は避難所へ。



NO

YES

避難所

在宅避難

自宅のほかに親戚・
友人宅やホテル等へ
避難する方法も。

避難所に入れないことも

都心部では収容人数
に限りがあり、地方では
近くに指定避難所が
ない場合も。住まいの
地域の避難所について
確認しましょう。



備蓄は最低 3 日分しよう！

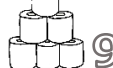
災害発生時には、ライフライン(電気、ガス、上下水道、通信)が止まる、物流の停滞から食料や生活物資が手に入りづらくなる状況が考えられます。分量としては、まずは家族の人数 × 最低限 **3 日分**を、物流が徐々に回復したとしてもすぐに必要なものが入手できるようになるとは限らないため、できれば **1 週間分**を目標に備蓄を進めましょう。



普段から使う食材、加工品、生活用品、衛生用品などは、少し多めに買っておき、古いものから順に使い、使った分だけ新しく買い足すことで、常に一定量の備蓄ができます(ローリングストック)。

外出中に災害が発生することを考えて、普段から持ち歩く飲料水やチョコレートなどの『持ち歩き用品』も備えておくとう安心です。

◎東京備蓄ナビにて算出した 1 週間分の備蓄品の量の一例(集合住宅に住む成人夫婦、小学生 2 人(男女)の 4 人家族)

飲み水  76L	無洗米  10kg	レトルトご飯  76 食	レトルト食品  26 食	缶詰  26 缶
アルコール スプレー  3 本	除菌ウェット ティッシュ  280 枚	口内洗浄液  2520mL	トイレット ペーパー  9 ロール	簡易トイレ  140 回分

口備蓄で見過ごされがちなものが**トイレ**です。

災害時に停電や給水・排水管が破損するとトイレは使えなくなります。

トイレをがまんするために水分摂取を控えると、命にもかかわってきます。

家族全員がトイレをがまんしなくてすむように、災害用のトイレも備えましょう！！

口また、飲み水以外に、**生活用水**も必要となります。

普段からの生活用水のくみ置きも考えておきましょう！



どのくらいの量を備えたらよいか分からないという方には、東京都のウェブサイト「東京備蓄ナビ <https://www.bichiku.metro.tokyo.lg.jp/>」が参考になります。

家族の人数、性別と年齢、住まいの種類(戸建て/集合住宅)、ペットの有無を入力すると、必要な備蓄品目と量がリストで表示されます。



十小付近の主な避難場所・避難所等の紹介



災害時の役割	施設名	所在地
いっとき避難場所・避難所	小平第十小学校	上水本町 4-4-1
	上水中学校	上水南町 1-7-1
	小平第四中学校	学園西町 1-3-1
いっとき避難場所	都立小平南高校グラウンド	上水本町 6-21-1
	情報通信研究機構テストフィールド	上水南町 4-2
	一橋大学グラウンド	学園西町 1-29-1
広域避難場所	けやき公園・都立小平南高校一帯	上水本町 6 丁目付近
避難所	上水南公民館	上水南町 1-27-1
福祉避難所	上水本町地域センター	上水本町 3-11-11

※避難所と福祉避難所は、被災の状況により市災害対策本部の判断で開設されます。

避難所について ⇒避難所に避難する場合や、在宅避難者が物資の提供を受ける場合、「避難者カード」
「【受付時用】健康確認チェックシート」を総合受付へ提出します。受付にも用意していますが、数に限りがあります。密を避けるためにも、あらかじめ記入しておき、避難の際に持参しましょう。
(様式は小平市トップページ→避難所管理運営マニュアルで検索→「避難カードとは」からダウンロードできます。)
※携帯電話の方は右記のQRコードからダウンロードできます。

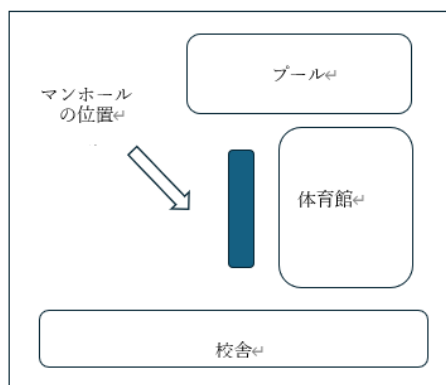
<https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/047/047279.htm...>



マンホールトイレとは!?

十小の校庭に災害時にトイレに使うマンホールがあります。その上にトイレ室を組み立てて使用します。
マンホールトイレを使用する時は主に施設のトイレが使用できず、下水道に被害がない時に使用できます。

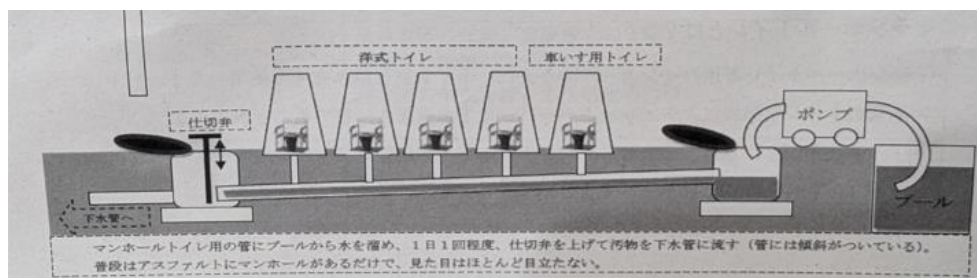
左下の図の場所にトイレ用マンホールがあるので、学校にお越しの際はお子様と探してみてください!



トイレ用マンホールは全部で九個ありました。等間隔で一列に並んでいます。



マンホールの上にこのようなテントを立ててトイレを設置します。



マンホールトイレは上図のようにプールの水をつかって汚物を一日一回下水管に流します。

～訓練の時の市職員さんからのメッセージ～

地震などの災害はいつ起きるか分かりません。それは休日、夜間という事もあります。その為、市や学校だけでなく地域の皆様との横のつながりを強化し、災害時の対応を円滑にしていきたいです。よろしくお願いします。

小学生向け防災ポーチの作り方

災害はいつ起こるか分からないため、子どもが一人にいるときに被災することもあります。子どもを守るグッズをまとめた「防災ポーチ」を持たせるのはいかがでしょう。入れ物のポーチは子どもが持ち歩きしやすい大きさのものなら、移動ポケットやきんちゃく袋、透明のフラットポーチなど、どんなものでもOKです。防災ポーチの中身の一例を紹介します。ポーチの中に必要なものを親子で一緒に考えてみませんか。



防災ポーチの中身の一例

【B6サイズのフラットポーチを使用】

- ☐ 緊急連絡先
- ☐ 防災ホイッスル & ミニライト
- ☐ ポケットティッシュ
- ☐ 除菌ウェットティッシュ
- ☐ 携帯簡易トイレ
- ☐ 救急ばんそうこう
- ☐ マスク
- ☐ 飴・熱中症ラムネ
- ☐ 小銭（飲み物代・公衆電話代）
- ☐ 布製粘着テープと油性ペン

非常時に役立つ！防災アイデア

布製粘着テープ

- ◎ダンボールなどの資材を留める・貼り付ける
- ◎傷口の止血や、骨折した時の添え木の固定などに
- ◎靴や服がやぶれたときの応急処置に
- ◎持ち物の名札や伝言メモとして



ポリ袋

- ◎水の運搬に



リュックと大きめのポリ袋2枚で背おって水を運搬できる簡易給水袋を作ることができます。

- ① リュックの中に、ポリ袋を2重に入れます。
- ② ポリ袋に水を入れ袋の口を縛ります。

リュックの代わりに、ダンボール箱を使えば、簡易給水タンクになります。

- ◎ポリ袋調理（バッククッキング）に



ポリ袋調理（バッククッキング）は、高密度ポリエチレン製のポリ袋に食材を入れ、袋を閉じて袋ごとゆでる調理方法です。

袋に入れたまま器にのせ、食べ終わったらポリ袋だけ捨てれば、器を洗う必要がありません。

『編集後記』

地震や災害はいつ起きるか分からないため、いざ災害が起こった時にすぐ駆けつける事ができるのは近隣住民の方々です。今回の防災訓練を通じて地域の方とのつながりを強化する大切さを学びました。また十小地域は浸水被害がおこりやすい地域なので、避難場所の確認や備蓄も大切にしていけたらと思います。

《PTA 防災委員会ニュース》が皆さんの一助になれば幸いです。

PTA 防災委員一同